

埼玉県草加市手代町において、2月21日（日）自治会の総会に先立ち、防災の勉強会が、開催された。辻田代表が講師として招かれ、『地域の防災力向上の新しい取り組み』と題して、約1時間の講演を行った。

手代町は、千葉県・東京都との県境から1～2kmの埼玉県南西部に位置する静かな住宅街であるが、住民有志による防災部会の立ち上げ、マンホールトイレを設備した防災公園など、町の“防災資源”も比較的充実しており、住民の防災意識も高く、当日、会場の草加市社会福祉活動センターは、100数十名の参加者で、椅子席が不足する程であった。

従来、防災の講演では、防災マニュアル・防災備蓄品などのテーマが多いが、当日の講演では、“DCM”の取組みという、一般住民には、まだ聞きなれないテーマについて、『まず意識改革から』『正常の偏見』『準備していないことはできない』『地域防災活動こそ、“まちづくり”そのものの活動』など、とても判り易く解説され、手代町のこれからの“まちづくり”活動に大いに参考になったものと確信している。後に控える、総会スケジュールの関係で、質疑応答の時間がカットされたのは、少し残念であったが、熱のこもった“あつという間の”一時間であった。